

# Glocal Tenri



月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.24 No.1 January 2023

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

1

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
神学者であることの倫理  
／井上 昭洋 ..... 1
- ・ 天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」  
(3)  
本連載における「翻訳」について②  
／加藤 匡人 ..... 2
- ・ 台湾の社会と文化—天理教伝道史と災害民族誌 (11)  
戦前台湾における現地人布教  
／山西 弘朗 ..... 3
- ・ 社会福祉からみる現代社会—天理教の社会福祉活動に向けて— (6)  
新自由主義改革と社会福祉—サッチャーとコミュニティケア改革—  
／深谷 弘和 ..... 4
- ・ ライシテと天理教のフランス布教 (31)  
21世紀のライシテと天理教のフランス布教①  
／藤原 理人 ..... 5
- ・ コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観と教えの伝播— (25)  
6. コロンビアの日常4：家族の実態その3  
／清水 直太郎 ..... 6
- ・ 図書紹介 (133)  
平山洋著『時事新報社主 福沢諭吉—社説起草者判定による論客の真実—』  
／金子 昭 ..... 7
- ・ おやさと研究所ニュース ..... 8  
第352回研究報告会 (10月31日) /  
第353回研究報告会 (11月29日) /  
2022年度公開教学講座のご案内

## 巻頭言

### 神学者であることの倫理

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

ずいぶん前の話だが、北米の神学者や宗教学者のブログを少しの間だけ賑わせたインターネット上の記事がある。2009年7月27日付の *The CHRONICLE of Higher Education* の記事、“The Ethics of Being a Theologian”である。著者は、カナダのブランドン大学宗教学部長を務める K. L. Noll 准教授である。彼のエッセーは、神学と宗教学との関係についてしばしば取り沙汰される問題を提起したもののだが、やや思慮に欠けると言われても仕方のない論調が、ネット上で非難的になったのだった。まずは、彼の主張を紹介しよう。

彼の不満は、多くの人々が宗教学が何であるのかを分かっている点にある。宗教学の教授は、しばしば神学の教授と混同されたり、その仲間と見なされたりする。それもそのはず、カナダでは公立の大学においてでさえ、宗教学部に神学者が所属し、彼らの多くは宗教学と神学を区別したがる。彼にとってこのような事態は耐え難いものであり、その憤懣は神学に対する批判へと向けられる。

彼によれば、学問とは知識を進展させるものであり、宗教学も、宗教は何をなすのか、宗教はどのように進化してきたのかについて理解を深めることで、知識の進展に貢献している。一方、各々の宗教の神学はなぜその宗教が存在するのかについて説明することはできるが、その説明は教義の中から引き出される truth-claim (検証のしようがない仮説) に基づいたものにすぎない。彼にとって、「神学」は神についての言葉の体系であり、それは神学者によって生産される学識 (scholarship) ではあるが、宗教学の研究対象の1つでしかない。

神学者が宗教を実践し擁護することに何ら問題はないが、そのような営為は宗教の「実践」であって宗教の「研究」で

ないと彼は主張する。神学も宗教学も経験的に蓄積された証拠から理論を導き出し、より良い神学や宗教学を作り上げて行くが、両者には決定的な違いがある。宗教学者がアカデミックな叡智から引き出された証拠を検証するのに対し、神学者はエソテリックな叡智から引き出された証拠を検証するのである。このように論じた後、彼は宗教学者と神学者の違いを生物学者と実験室のカエルの関係に喩える。

彼によれば、神学者は自らの宗教を活発化し永続化させ、また詳細に説明し、擁護しようとする。一方、宗教学者はサンプルとなる宗教を選択し、それを開腹し、その中を弄り、時に宗教の魔術的な側面を殺してしまうが、それが実際にどのように機能しているのかを明らかにする。このように指摘した後、彼が言及するのは神学者の倫理の問題である。

彼は、神学は人間の知識を進展させる「学問」であるという“誤った”主張が現代社会に重大な影響を及ぼしていると考え、そのことを神学者はもっと真摯に受け止めねばならないと言う。例えば、インテリジェント・デザイン<sup>(1)</sup>といった疑似科学の隆盛についても、神学者は倫理的な責任を負うべきであるとまで彼は力説するのである。確かに、彼の神学批判には粗雑な議論の展開が散見されるが、「神学」を「天理教学」と読み替えた時、天理教信仰者が(天理教を含む)宗教を研究する時に避けて通ることのできない重要な問題を提示していることも確かである。

〔註〕

(1) インテリジェント・デザインとは、ある設計者によって生命や宇宙が精妙に設計されたとする説である。進化論に対抗する言説であるが、キリスト教の創造論とは異なり、宗教色を隠すために、設計者・創造者を「神」ではなく「偉大な知性」などと呼ぶところが特徴的である。